



● 審査の信頼性

**意見** 独立行政法人へ東電から出向しており、審査する人が事業者の人では審査もあてにならない。

**A** 事業者からの出向者は研究部門などに配属し、検査・審査部門には配属しない。

● 保安検査官の人的強化

**意見** 原子力安全基盤機構ができたが、地元の保安検査官事務所は9名体制のままと聞いている。現場でも人員強化をし、チェック機能がより働くようにして欲しい。

原子力安全基盤機構ができたが、地元の保安検査官事務所は9名体制のままと聞いている。現場でも人員強化をし、チェック機能がより働くようにして欲しい。

● 検査員の資格

**Q** ひびの検査員はどんな資格を持った人になるのか。

**A** 非破壊検査の資格は、日本非破壊検査協会の資格認定制度で3つのランクに分けられている。

原子力では上の2つ、2種200名程、3種50名程の有資格者が検査に従事。また、新技術に対応するための研修も行われている。

● 検査員の訓練施設

**Q** 米国の検査体制は厳しく、1200時間、4〜5年の訓練が必要で、訓練センターには実物と同じものがあると聞いている。日本にもこのような訓練施設はあるのか。

**A** 一部あるが、実機と同じようなものはない。研修内容を充実させ、経験を積ませることは重要であり、支援、促進していきたい。

**要望** 大きな訓練センターの建設を。それを地元で誘致したい。

● 夏の電力需給実績

**Q** 今年の夏は電気が足りないといったが、大丈夫だった。このような状況なら、ひびのある原発を急いで運

転再開しなくても間に合ったのでは。

**A** 予想最大電力6千数百万kwに対し、実績は1千万kw程度下回った。冷夏が最大の要因。しかし、例年1〜2%需要が伸びており、来年以降は猛暑の可能性もあり、供給力の確保は必要。

● 維持基準の適用時期

**Q** 10月1日に制度改正したが、維持基準はいつから適用なのか。

**A** 10月1日以前から検査しているところは、検査の混乱を防ぐため、次回の点検から導入することになる。柏崎刈羽3号機も検査中なので、維持基準は適用されず、特認申請を行うこととなった。

● 再循環系配管の追加点検

**Q** 再循環系配管の追加点検は大歓迎。追加点検では検査や修理の方法は変わるのか。

**A** (東電) 検査方法は変わらない。修理方法は、これまでではひびのある配管は取り替えてきたが、ひびを取り除く方法や、諸外国ではひびの上に更に溶接する方法もある。

**感想** 安心につながる前向きな姿勢と思う。修理方法を変える場合、疑念解消のため、一般の人へていねいに